史編さんの窓 (13)

金津保新津

新津が史料に初めて顔を出すのは、建仁元年（一二〇一）三月、城長茂とともに鎌倉幕府に反抗した新津四郎が吉野で捕えられて、都大路をさらし首になったという記事です。それ以前の新津がどうであったかを示す史料はありませんが、中央の貴族や社寺の支配する荘園ではなく、国司の直接支配する土地であったと考えられます。そのことを示唆するのは、「金津保」と記す中世の史料です。一般的に「保」とは、荘園が多くなってゆく中で国司が直接支配し、あたかも国司の私有地のようになった土地（国衙領）をさすと考えられています。今、その関係の記事を紹介しますと――

建武三年（一三三六）八月、奥山庄の地頭三浦和田義成は北朝方の総帥佐々木景綱に従って長井保青橋山（村松町）で河内為氏一族と戦ったあと、九月二日には金津保新津城に引き籠って小国光政以下の南朝方と合戦した。

――という史料があります。この時、色部高長が菅名荘や金津保でも活躍したことを示す記事もあります。そして文明年間（一五世紀末）のものと推定されている「蒲原郡段銭帳」には、金津保に所領をもつ者の名が多数記されています。そこからは、菅名荘から金津保にかけての地域で二百町余の土地を持つ平賀氏という豪族がいたことや、守護代長尾氏の勢力が入りこんでいることなどが分かります。

また、六町五反余の領地を持つ妙蓮寺という寺もみえますが、この寺は東島の妙蓮寺ではないかと思われます。法久山妙蓮寺（日蓮宗）は、一三世紀の末に日印上人（三条市の本成寺開山でもある）によって開かれたという伝えを持ち、「越佐史料」には徳治元年（一二〇六）の曼荼羅が記されています。この寺が中世の金津保における有力寺院の一つであったことは間違いないようです。

新津

金津保の広がりについては、それを直接的に示す史料はありません。しかし、いろいろな史料を総合して考えると、現在の新津市域を中心に小須戸町や五泉市の一部を含むものであったように思われます。そして古社寺や中世の城館跡（東島城、程島館、新津城等）が金津周辺に多くあることからすれば、現在では新津市の縁辺部と考えられがちな丘陵地と、その西側の沖積地の微高地にかけてのあたりから次第に開拓されてきたような感じがします。

（古代・中世部会）

妙蓮寺曼荼羅（徳治元年）

施設めぐり

まだ余裕があります。お申し込みください。

先号でもご紹介しましたが、左の表の日程で「施設めぐり」を計画し、皆さんの参加をお待ちしています。まだ余裕がありますので、親子で、あるいは友だちを誘い合わせて、ぜひ、お申し込みください。

□とき…八月十日（水）、十一日（木）、二十二日（月）、二十三日（火）の四回で、午前九時から午後三時まで

□費用…無料

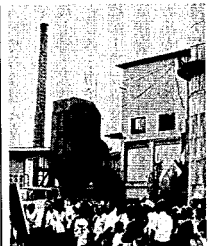
□申し込み…七月三十日（土）の正午までに企画室（☎4―二一一一内線二三七）へ。ハガキによる申し込みもできます。

□定員…一回五十人

□その他

※昼食を持参してください（昼食時にトン汁をサービスします）

※雨天でも実施します



廃棄物処理センターを見学（昨年の施設めぐり）

見学日程

9：00	集合・出発（市役所前）
9：10～9：30	廃棄物処理センター第一工場
9：40～10：00	新津浄化センター
10：10～10：50	勤労青少年ホーム
11：00～11：40	阿賀小・新津東部地区学校給食共同調理場
11：50～13：20	秋葉公園（昼食）
13：30～13：45	グリーンセンター
14：00～14：40	荻川地区公民館
15：00	解散（市役所前）

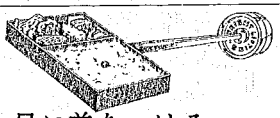
二十六日の一歳六か月児健診は中止

七月二十六日の一歳六か月児健診は、都合により中止します。このため、七月の健診は二十二日だけになります。

遺児手当を振込みます

四月から七月分までの四か月分の遺児手当を七月二十日に受給者の皆さんの口座に振込みます。

見直そう日本のお米（最終回）



昼に差をつける弁当パワー

厚生省が行った「国民栄養調査」（昭和52年）によると、男性の59％、女性の44％が昼食を外で食べています。外食は手軽で便利ですが、栄養面ではかなり問題があります。

国民栄養研究所の分析データから、外食の代表的メニューをみると、●かけそばなどのめん類はカロリーも脂肪も少ない、●カレーライス、ちらしずしは糖質が多く、脂肪が少ない、●チャーハン、カツどんは脂肪が多い、ということを指摘できます。昼食がめん類やどんぶり物では、満腹感は得られても、栄養満点とはいえません。

健康を考えると、昼食は手づくりの弁当が一番です。ごはんを主に、いろいろな食品をうまく組み合わせることができ、栄養バランスの面で合格、しかも経済的です。